

レベル別指標 (集いの場編)

	始める前の検討事項	換気	手洗い・消毒液
レベル0 平常	<p>事前に運営側との話し合いを設け、留意事項、会場設営、環境整備、非接触型体温計、消毒物品の準備、当日の感染予防対策について確認する。</p> <p><資料1-1、1-2参照></p> <p>【包括の基本姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中止が好ましい状況であれば、開催を見合わせたり、参加時間の短縮、参加内容の変更に対して助言を行う。 ・参加人数が多いサロン等は開催時間を二部に分け、申し込み制にする。 ・開催案内を回覧する際は、参加前に自宅で体温測定、体調の確認をすること、各自飲み物は持参すること、履物の持参などを記載し、感染予防について周知する。<資料2参照> ・必要時、依頼する講師へ感染予防について周知する。また、依頼する講師へ参加者同様に体温の測定、体調の確認を行う。<資料1-1参照> ・血圧測定は行わない。 <p>【地域の基本姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操時のカウントや歌を歌ったり、息が上がるような活動は控える。 ・マスク忘れがあった場合は、運営側で準備したものを渡す。 <p>集いの場の開催については、地域に確認する。</p> <p>状況により感染拡大傾向であれば中止し、感染縮小傾向であれば、始める前の会議を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常時換気していない場合は、1時間に2回、1回5分程度の換気が有効。 ・室内が密な場合は、常時換気する。 ・2方向の窓を開けて（できるだけ対角線上に）換気する。 ・2方向に窓がない場合は、換気を効率よく行うために、扇風機やサーキュレーターを活用し、窓側に向かって回すと有効。 ・換気扇がある場合は常時使用し、1か所窓を開けておく。 ・夏場の対応：エアコンの温度を低めに設定する等調整する。できればエアコンから離れた場所の窓を開けると節電となる。 ・冬場の対応：換気をしながら暖房を使用する際は、サーキュレーターをエアコンに向けて回すことで、室内の温度・湿度を一定に保つことができる。<下写真参照> ・湿度は40～60%に保つようにし、加湿器を置く場合は部屋の中央やエアコン下に設置すると効果的。 	<p>アルコール、ハンドソープを使用。</p> <p>会場への入退室時や共有部分に触れた場合は手洗いや消毒を適宜行う。</p> <p>トイレを使用する場合は手指消毒を徹底する。</p> <p><資料4.5.6参照></p>
レベル1 注意			
レベル2 警戒			
レベル3 警報	熊本市の通達に依る		
レベル4 特別警報			
レベル5 警戒警報			

掃除（消毒場所）	飲食	マスク	検温	参加者の健康状態把握	ソーシャルディスタンス
<p>次亜塩素酸ナトリウムを使用。ドアノブ、トイレ、椅子やテーブルなどの共有部分や使用した物品等を適宜消毒する。</p> <p><資料3.4.5参照></p>	<p>飲み物は各自持参。水分摂取以外の飲食はしない。水分摂取の際は、マスクを外すため、会話はしないよう事前に周知する。</p>	<p>運動や体操時以外は全員マスク着用する。マスク着用方法について受付に図で示したものを掲示する。</p> <p><資料7参照></p>	<p>非接触型体温計で測定し記録しておく。体温計は運営者側で準備する。参加者は参加前に自宅で検温する。さらに会場で測定して37.5℃超える場合は体調を確認して落ち着いてから再検する。</p> <p><資料8参照></p>	<p>包括より、感染予防対策として、運営者の方に参加者の健康状態を把握する方法・手段の提案を行う。</p> <p><資料8参照></p>	<p>前後左右の人との間隔を2m以上開ける。</p> <p>ソーシャルディスタンスが保てない場合はマスクをつけたり、衝立や仕切りを活用する。</p>